

(文書番号) 歯教国構第 05-01 号
平成 17 年 6 月 21 日

外務大臣官房会計課長 殿

Organization of International Support for Dental Education (OISDE)
歯科医学教育国際支援機構

プロジェクトリーダー；深川 周

日本 N G O 支援無償資金協力事業完了報告書

平成 16 年 3 月 24 日付日本 N G O 支援無償資金協力贈与契約に基づく「東ティモールにおける歯科医療復興と巡回診療プログラム」が、平成 17 年 4 月 30 日をもって平成 15 年度の活動を完了いたしましたので、関係書類を添え、下記のとおり報告いたします。

記

1. 事業の実施期間：平成 16 年 5 月 1 日 ～ 平成 17 年 4 月 30 日

2. 事業の実施成果（要約）：申請書に記載したプロジェクトにより期待される効果

① 摂食機能の維持に対する効果

歯科医療診療行為、啓蒙活動をとおして地域住民の摂食機能維持に貢献できた。しかし、貧困は食生活におよび、炭水化物以外の栄養改善と摂取量増進はそれ以前の問題である。

② 口腔疾患の予防プログラムによる口腔環境維持の啓蒙効果

治療およびポスターを用いた啓蒙活動をとおして、口腔健康保健の重要性について広く認知させるようになった。啓蒙活動を反復することでより理解が深まっていった。ただし、歯科治療といえば抜歯という観念からの脱却には持続的な努力が必要である。

③ 母子・高齢者に対する口腔環境の維持

保健所を基点に行動し、母子健康保健の実施日と同日に、隣の診療室を提供していただいたので、予想以上の効果が上がった。今後もこの活動形態が続けられることが望ましい。

④ 最終的裨益人口

リキサ県の主要な村への重点的訪問、また曜日ごとに訪問診療先を定めたことで、より密度の濃い重層的な活動が可能になった。

集めた住民基礎データとしてのアンケートは 2 月までで、2,820 名におよび、診察した患者の数は 2004 年 9 月から 2005 年 3 月までの 7 ヶ月の間で 673 人である。これはリキサ病院歯科診療室が 2003 年の一年間に診察した 319 人をはるかに上回る数字である。また、人数には含めていないが村の小学校で啓蒙活動を行ったことは今後の広報活動とも結びつき、より期待の高まる効果があった。

プロジェクトの自己評価

計画の妥当性

村々ではインフラ設備（上下水道や道路など）を第一にと言われたが歯科医療に対する認識の低いところを意識的に選択して活動を行った。そのような地域の住民の口腔保健のみならず健康に対する意識を向上させるのに寄与した。

歯科医療技術というソフトの移転という意味では施される診療内容は今後も継続して発展させる必要がある。緊急に何をすべきなのかという点では現地のスタッフを教育できた。悪路の山道を往復して村々へ連日訪問するのは体力的にも精神的にも苦痛であった。基点を定めて移動距離は最小限にしたい。かたや携帯診療具をコンパクトに持ち運ぶための4輪駆動車が一台あれば費用は移動手段と燃料くらいで、今後の継続が比較的安価に望まれる。提携していたハサヌディン大学からの歯科医師が直前で協力を得られなかったことや、当初、対象地域として準備を進めていたバウカウ県が治安の問題で実施不可能になったりと、やむを得ない事情で体制の変更が出た。

村人のほとんどは初めて歯科の診察を受けたという方ばかりで、緊張の面持ちだった。同一の村へ訪問を重ねることで信頼を得て再訪する患者、噂を聞きつけた患者も多かった。デンタルナースがデンタルナースへ教育するという副次的効果もあがった。しかし、臨床研修医が必ず通る自分の能力の限界を誤り失敗することもあった。つねに指導できるように見守る体制を強化する必要性を痛感した。

今後はリキサでの成功例を東ティモール全域の県で広め現地NGO育成の手助けをする。デンタルナースを核にして、歯科医療の普及に努力する。保健省と連携し、より効率的な口腔健康保健の拡充を目指す。日本国内で広報活動を積極的におこない（日本大学や東京医科歯科大学での講義、学会での発表など）国内外でひろく認知を高め発展に努める。

3. 日本NGO支援無償資金精算額： 9,743,869円
契約額（供与限度額）と同額

4. 会計報告（事業資金収支表、資金使用明細書、支払証拠書写し）：

別紙のとおり

5. 外部監査報告書提出予定日：平成 17年 6月 21日

【添付書類】

- ① 会計報告関係：事業資金収支表、資金使用明細書、支払証拠書写し綴り
- ② 事業の成果（詳細報告書）の抜粋
- ③ 事業内容説明写真の抜粋